

# 人生の楽しさを追求する

推理小説家

北林 優 きたばやし ゆう



パイナップルに似た植物はアダンです。  
(沖縄県浦添市 浦添美術館中庭にて)



徳島大学一年生のわたしは今、吉野川の土手で自転車もろともひっくり返った瞬間です。そして、緑の土手を転がり、小さなつくしを発見しました。

いきなり、わたしの学生時代へタイムスリップしてしまいました。徳島大学の皆さん、こんにちは。

あなたは今、何をなさっているところでしょうか。

わたしは大学入学早々、徳島じゅうを走りまわりたいと風光明媚で、食べ物は美味しいし、こんな素晴らしい徳島ライフを楽しみたい手はありませんー乗れもしない自転車を購入しました。そして、ついに三日目、無数のすり傷をこきよえて、左右に揺れながらも五メートルほど走行できたのです。あとは走行距離を伸ばすだけです。何事も、踊らな損々です。

遊びであれ、学業であれ、仕事であれ、人は目標があると、がんばれるものです。そして、好きなことには夢中になれるものです。

わたしの場合には単に自転車で徳島を走るといって、ささやかな目標でしかありませんでしたが、それでも徳島での学生時代、わたしが得た大きな財産のひとつに「人生の楽しさの追求」があります。

人生の楽しさを追求するという、ともしれば利根的な享楽主義と曲

解されがちですが、そうではありません。人生の楽しさを追求するには、人生に対する前向きな姿勢や、大袈裟に言えばフロンティア精神が必要です。

何事もやってみなくちゃ分かりません。踊らな損々。阿波踊りも参加してはじめて、その楽しさが分かります。急調の囃子、圧倒的な迫力の男踊り、粋な美しさの女踊り、盆の夜の華やかさと深さ。

夢中になれる何かがあるということとは、それだけです。人生に恵まれているともいえます。

徳大生の皆さん、夢中になれる素敵な何か(恋愛を含む)をぜひ見つけてください。応援しています！

## 薬剤師から推理小説作家への華麗なる転身



大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
医薬情報解析額分野

木原 勝 きはら まさる

勤務後、第1回角川春樹小説賞佳作の『0と1の間』で子育てが落ち着いた2000年2月にデビューされました。学生時代はまじめに卒論研究に取り組んでいましたが、とてもナイーブな感じの学生さんで殺人事件が絡む作家になるとは想像もできませんでした。「素人の強みは、既成の常識を逸脱することにある」との信念で書かれた彼女の作品は、新しい独特のスタイルの小説で、人物造形と話術の巧みにミステリーファンとして有名な児玉清氏や評論家など多くの読者から高い評価を得ています。現在、第7作目を執筆中の北林優さんの益々の活躍を期待しています。

### プロフィール

1979年に徳島大学薬学部薬学科卒業。  
病院薬局勤務を経て、2000年に作家デビュー。  
現在沖縄県在住。大学生を筆頭に三名の子の母。夫は歯科医。

- 2000年 『0と1の間』(角川春樹事務所刊行)
- 00年 『殺すに時があり』(角川春樹事務所刊行)
- 02年 『警視庁鑑識課/アブラムスの夜』(徳間書店刊行)
- 03年 『警視庁鑑識課/ミッドナイトブルー』(徳間書店刊行)
- 04年 『警視庁鑑識課/鎮静剤』(徳間書店刊行) ※同作品は第七回大藪晴彦賞候補作
- 06年 『シュガー・ザ・キッドの兄弟』(徳間書店刊行)
- 06年 『警視庁鑑識課/ミッドナイトブルー』が日本テレビにて放映。主演・菊川怜
- 07年 文庫『警視庁鑑識課/アブラムスの夜』(徳間書店刊行)